

第 69 回 アメリカ犯罪学会における海外論文発表 刑務所からの成人出所者がたどる社会再参加への回復プロセス



目で見る
海外論文発表

田 辺 裕 美*

The Way Back into Society:
An Analysis of Re-entry Facing Ex-inmates in Japan

Key Words : Re-Entry, Restorative Justice, Recovery, Communities

<参加会議名> 69th Annual Meeting of the American Society of Criminology (アメリカ犯罪学会)
<開催場所> アトランタ, アメリカ
<渡航期間> 2013年11月20日~23日
<発表タイトル> The Way Back into Society: An Analysis of Re-entry Facing Ex-inmates in Japan

この度、海外論文発表奨励賞を頂き、アトランタで開催された第69回アメリカ犯罪学会(ASC)に参加致しました。ASCは、多岐にわたる分野の学術、教育、実践に携わる人々の学際的な交流を促進することを目的として1941年に設立され、今日では50ヶ国以上、約3700名が所属する世界最大の犯罪学学会です。本年も社会学、心理学、精神医学などのテーマに沿って800以上のセッションが開催され、大変な盛況でした。私は「刑務所からの出所者がどのように社会へ再び統合され社会で生きるのか」について発表を行いました。学会のメンター制度(大学教員が学生会員を通信指導する)を通じて指導を受けている、カリフォルニア州立大学のDaniel Okada教授や、昼食会で同席したヨーロッパの研究者からアドバイスを頂く貴重な経験となりました。本学会への参加を通して、初めて世界の研究者が集う場で刺激を受け、自分の意見を持つ・伝える姿勢を見せることの大切さを実感しました。貴重な発

表の機会を頂きましたことに心より感謝申し上げます。



会場の様子



会場となった
Marriott Marquis ホテル



発表風景



Daniel Okada 教授と



会場のパネル前にて



*Hiromi TANABE

1987年5月生
大阪大学大学院人間科学研究科人間科学専攻博士前期課程修了(2013年)
現在、大阪大学大学院 人間科学研究科人間科学専攻 臨床教育学講座 教育心理学研究室 博士後期課程1年 修士教育心理学
E-mail : u779394i@ecs.osaka-u.ac.jp



ヨーロッパの研究者たちと